

つわぶき地域密着隊

喜入と育つ私たち、繋がり活かしてさぁ飛び出せ！



迫 朝陽（さこ あさひ）
樟南高等学校 1年

東 琉斗（ひがし りゅうと）
志學館高等部 2年

野村 隼叶（のむら はやと）
鹿児島県内高等学校 2年

活動概要

活動の内容

- 【自習室】主に喜入地域の中高生を対象にした定期自習室の開設(毎月第1週,第4週の土曜、喜入中学校の定期テスト前)
- 【つわぶき祭】喜入地域の子供たちが楽しみながら学べるイベント(2023年7月23日)
- 【数の世界へようこそ】計算を応用したカードゲームの2023年8月20日8月20日開催
- 【海辺のマルシェin喜入生見】
喜入生見町でのマルシェイベントに企画の段階から参加した。(2023年11月5日開催)
- 【ecoの森きいれのPR活動】
今年7月に開設された「ecoの森きいれ」という循環型処理施設の高校生目線でのPR活動(2023年9月から)

活動の特徴(新規性・発展性)

令和3年3月より活動を始め、活動の認知度や新たなことへの挑戦を意識して活動してきた。今年度は今まで通り新たなことへ挑戦する姿勢は変えず、新たに地域に寄り添った活動を展開するよう意識した。
また、高校生目線での意見を大人の方々に対しても積極的に伝え、中高生も含めた地域全体でのまちづくりができるよう心掛けた。SNSでの発信の仕方を変更し、より多くの方々イベントや自習室の情報をお届けできるよう工夫した。

活動の成果

地域の方々と積極的に関わってきたことで、喜入地域でさまざまな活動をされている方々にお声がけいただき、一緒にイベントを開催することができたり、追立造園からお誘いいただき、SDGsについて学ぶイベントの開催(12月10日)やWebサイトの作成・更新に携わるという持続的な活動に協力させていただけるようになった。地域の方々との関係を築くことができ、頼っていただけるようになったため、一緒にまちづくりを行えている。

課題の設定と意図

現在、ほとんどの地域で大人が主体となってまちづくりを行っている。

しかし、私たち学生がこの国、ひいては地域の将来を担っており、その根幹であるまちづくりは大人の方々にとだ任せだけではなく学生として積極的に取り組んでいくべきだと私たちは考えている。

そこで、まちづくりにおいて若者や学生の積極性を引き出すことが課題だと捉え、まずは私たちが地域の方々と一緒に活動し、若者が意見を出しやすい環境を作っていくことにした。

課題解決のための仮説と計画

課題を達成するために2つの分野に分けて仮説を設定した。1つ目は地域の中高生の声を聞き、ニーズに合わせることだ。最近、自習室を利用する中高生の数が減少している事実がある。これはアンケートを実施することで中学生の声が聞こえるのではと考えた。11月までにアンケートを実施できるように中学校に依頼の電話等をメンバーの予定と合わせて計画した。2つ目は地域で行われている行事に参加することで、自分たちに何ができるのかを探ることだ。喜入地域では季節に応じて様々な行事が開催されている。行事には多くの喜入地域の方が参加するため、学生であり住民でもある自分たちにできるのではないかと仮説を立てた。当初イベントの主催者にコンタクトを取り、ボランティアとして参加させていただくことを計画していたが、思いがけず、主催者から共催依頼が来た。団体のSNSや主催イベント、自習室の様子を見て団体にオファーがあった。そのため計画がだいぶ早まり、地域行事に早くから参画することができた。

活動で工夫できたこと

SNSの効果的な運用方法を研究し、団体の活動を必要としている方など、より多くの方に情報を届けられるように工夫して発信した。投稿する時間帯によっても投稿の閲覧者数に変動があることなどに気づけた。

喜入中学校の全校生徒を対象に自習室についてのアンケートを行ったことで、参加しやすい自習室についてデータをもとに検討できるようになったと共に、喜入中学校の先生方にも周知させることができた。

海辺のマルシェ、ecoの森きいれPR活動では受け身になるのではなく、自分たちに何ができるのか、どのような工夫をしたらいいのかなどを考え、積極的に発言し、主体的に取り組むことを心がけた。

分からないことはすぐに聞いたり、メンバー内で共有したり、自分たちで学ぼうとする姿勢を大切に活動できた。

OR合宿を通じ、物事を自分事としてとらえるようになり、社会問題や地域課題に対し関心を持ち、どのようにすれば解決できるかを考えるようになった。

OR合宿で喜入以外の地域を見て回り、喜入地域の魅力や課題点に気づけるようになった。そしてその気づきと高校生目線での喜入地域について意見できるようになった。

また、団体内でもメンバー同士の交流が少なかったため、OR合宿を通してお互いのことを知ることができ、学校や学年が違う中でも協力して活動に取り組むことができた。



迫 朝陽

今回の探究活動を通して、普段鹿児島市から出ることがなかったので、鹿児島市を離れ、他の町を見るのは新鮮だった。OR合宿では視野も広がり、仲間と協力して1つのプレゼンを仕上げることでできたのは私にとって大きな経験のひとつとなった。

探究活動後の取り組みでは、OR合宿以前から計画していた「つわぶき祭」が印象的だ。自分がリーダーとなり企画したイベントでは初めての、なおかつ団体としても今までで1番大きな規模となり、分からないことも多かったが、開催場所であるグリーンファームの園長さんをはじめ、様々な方の支えにより無事開催することができた。喜入の方だけでなく、喜入地域外の方と交流することができ、たくさんの方々の笑顔を目にすることができたので達成感が大きかった。

また、その後開催された「海辺のマルシェin喜入生見」では実行委員会に入り、共催という形で携わらせてもらった。つわぶきとしても初めての取り組みで、慣れない作業や地域の方との考え方のすり合わせなど、普段の活動からは得られない多くの経験をかせねることができた。この1年は地域に根付いた活動が多く、自分たちの成長も実感する1年だった。先輩達が続けてきた自習室や、昨年開催した計算ブリッジの2回目のイベントも開催しながら、つわぶき祭や、海辺のマルシェなどの新しい取り組みもでき、地域と共に成長していくのを実感した。

これから、また一風違った企画へ向けて動きたい。先輩達が続けてきた自習室や、計算ブリッジイベントなどを続けていながら、今年参加した海辺のマルシェなど、来年も地域に根付いたイベントに積極的に参加し、自分の企画力を磨き、より視野を広げていきたいと感じている。

東 琉斗

僕は「地域との関わり」を意識して活動した。僕は団体が設立された一昨年から関わり、地域で活動を継続している。一昨年の団体のテーマは「喜入に自習室を」ということで様々な問題と向き合いながら大人の方の助けを得て自分たちで自習室を開設することができた。昨年は「人と人の繋がり」をテーマにして名刺作成や告知を工夫するなどして自分たちの取り組みを喜入地域や地域外にも発信し、団体の活動を知ってもらう機会になった。そして今年は自分たちだけではなく地域で他に活動をしている企業や団体、個人の方とともに地域おこしに携わることができた。例えばグリーンファームさんの場所を借りて実施した「つわぶき祭」は昨年から構想があったが、今年になってきちんとした形となって実施することができた。「数の世界へようこそ」は昨年僕が主体となり、開催したイベントの第2弾として今年も継続して開催することができた。これは昨年の参加者の方々からの「また開催してほしい」という声を多くいただいたことから、昨年と同様に計算ゲームの発案者を招き、開催することができた。「海辺のマルシェin喜入生見」というイベントは鹿児島市喜入支所から直接依頼があったもので、喜入のために動いている学生団体として認めってもらったことがとても嬉しかった。

また、今年の下半期から会長職に就き、メンバー25人をまとめる立場となった。少し前まではリーダーに従ってリーダーのために動いていたため、突然目標が失われた気持ちになった。どのようなリーダーであるべきか、どのようなまとめ方が良いのかを日々考え悩んだ。そこで僕は思い切ってメンバーを信じ、任せることにした。OR合宿では住民の心を動かすには相手の得意なことや好きなことを引き出すことで成功した例を学んだ。ではこの団体ではどのような方法が良いのかと考えた。この団体は地域活動やイベント企画に意欲的な中学生や高校生が入っているため、積極性がある。そのためイベントすべてを会長が担当するのではなく、メンバーの中で適任者や希望者を募りイベントを企画することにした。マルシェでは共催者である生見まちづくり協議会や喜入支所との連絡も担当者自身で行い、アイデアが出ないときやサポートがほしいときに僕やメンバーに相談するなど自主的にうまく取り組むことができていたと感じている。

野村 集叶

「海辺のマルシェin喜入生見」というイベントの共催としてお声がけいただき、SNSでの発信を主とした広報活動に注力した。その中で、得意な分野において考えをアウトプットすることの重要さと外部の方々には私たちがイベントなどについて知っていただくことの影響を実感した。

特に、イベントでのSNSの運用方法について出店者や参加者の方々にお褒めの言葉をいただいた際には、得意なことを活かせたと感じ自信につながった。今後の目標は『自己プロデュース力』を伸ばすことである。自信をもってアイデアを出せるようになることで、団体としても個人としても活動する上でのより良い選択肢を選ぶことができると考える。

現在は、迫立造園という喜入地域の企業から「ecoの森さいれ」を紹介するWebサイト作成の依頼を受け、実際に施設に赴き、勉強すると共に、話し合いを重ねながら計画を進行中である。Webページについては得意としている分野のため、今後の話し合いにおいて改善点や自分の意見を積極的に伝えていきたい。



1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	九州・沖縄
---------	---	---------	------	------	-------

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立大隅青少年自然の家	修了日	2023/7/17	カリキュラムのタイプ	B
フィールドワークの内容					
実践活動期間	2023/7/17 ~ 2023/11/30				
活動のタイプ	発展的な活動				
協力者	主な協力者			協力内容	
	所属	株式会社 追立造園		サイト更新業務の依頼、開催するイベントへの協力	
	氏名	追立正人			
	所属	国立大隅青少年自然の家		オリエンテーション合宿やその後のサポート	
	氏名	上野修司			
	所属	一般社団法人計算ブリッジ協会			
氏名	上野晋太郎		イベントの共催		
協力者総数	20名		協力団体数	3団体	

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 38 日

事前:準備・打合せ	28日	本番:メインの活動	4日	事後:ふりかえり・報告	6日
-----------	-----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
SNS	自ら発信	3回以上	自習室、イベントの開催後報告
SNS	取材された	1回	鹿児島市役所喜入支所の公式アカウントでイベントについてご紹介いただいた
その他	取材された	1回	コミュニティFMに出演し、イベントや団体について紹介した

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
7/23 ~ 7/23	②実践活動本番	鹿児島市観光農業公園(グリーンファーム)	喜入地域の方だけではなく地域外の方も対象にしたイベントの開催
8/20 ~ 8/20	②実践活動本番	喜入公民館ホール	計算ブリッジというカードゲームを発案者とともにプレイするイベントの開催
11/5 ~ 11/5	②実践活動本番	生見海水浴場	キッチンカーや地域の農産物等を販売する方などを集めるイベントの共催